日本の元気！会社訪問 No.130

防火シャッター用安全装置「Sガード」

岩川光治・代表取締役社長

キラリと光る“アジャスト技術”現場発想を原点に、納得の製品を創り出す

サンユウテック株式会社

所 在 地／茨城県つくば市境田180-36
事業内容／防火シャッター用安全装置の開発および製造・販売
ホームページ／https://www.s-guard.co.jp

事故を起こさないため画期的装置を開発

多くの研究機関を擁し、最先端の研究が行われている茨城県つくば市。この地域に本社を置くサンユウテックもまた、人々の安全と安心を守るための製品を研究し、次々とリリースしている。

事業の柱は、防火シャッター用安全装置の開発、提供だ。代表取締役／岩川光治氏は、1978（昭和53）年よりシャッターの修理・点検業を行う会社を率いてきた。だが1998（平成10）年、小学生が煙感知器の誤発報で降下した防火シャッターに挟まれて死亡する事故に、大きなショックを受ける。

「なぜ起きてしまったのだろう。悲劇を繰り返さないためには？と思い悩みました」（岩川代表）。

防火シャッターの下部が30㎝開いていれば、挟まれることもなく、逃げることもできた。だが全閉は法律で決められている。ならば、シャッター下部に自由に動くパネルを設置すれば……。岩川代表は現場目線から着想し、技術担当チーフの間根山文彦氏とともに電気不要の防火シャッター危害防止装置『Sガード』を開発。2000（平成12）年にサンユウテックを設立して販売をスタートする。

性能、安全性、コストすべてに応える『Sガード』

『Sガード』は、防火シャッターの本体下部40㎝程度を軽量な可動パネルに改良することで、万が一挟まれても簡単に持ち上げられて、容易に抜け出すことができる（手を使わず、そのまま這い出すことも可能）画期的な製品。既設のシャッターに後付けできるため、余計な工事は不要。電気を使わずに機能するシンプルな仕組みなので、電気工事やそれに伴う天井工事も要らない。当然、イニシャルコストが抑えられる。さらに電気代や非常用バッテリーの必要もないから、ランニングコストも発生しない。

大手メーカーなどほとんどは電気タイプの製品で、高額の電気工事費や消耗品の管理・交換、バッテリー切れによる機能不全の恐れといった懸念が残るが、『Sガード』は気にしなくて良いのだ。

「2005年の法律改正により、防火シャッターの新規設置、改修を行う際『危害防止装置』が義務付けられました。『Sガード』は販売実績、約2万台、故障もクレームもありません」（岩川代表）。

『Sガード』は特許を取得、さらに漏れ出す煙の量等、厳密な基準値をクリアした上で認められる超難関『国土交通大臣認定』も取得できている。

『Sガード』のほかに、耐火クロスを用いた開口高の『Sガードクロス』（同じく『国土交通大臣認定』）の2種を展開、どちらも幅広く支持され、好調だ。

「構造はシンプルながら、発想・アイデア・企画力、それを形にする技術力は、オンリーワンといえるのではないかと自負しています」（岩川代表）。

台風の接近や暴風・強風等によるシャッターの損壊を防ぐ『シャッター用風圧被害防止装置（品名＝『勝手にガード』、『手動でガード』、『がっちりガード』）』も、現場の「困った」を解消する製品。こちらも設置が簡単で、ユーザーを満足&納得させている。

閉めれば自動で台風対策「勝手にガード」

窓を閉めれば自動ロック「わんぱくロック」

ベランダからの子ども転落防止「わんぱくガード」

簡単設置の補助アイテムで子どもの転落事故を防ぐ

さらに近年、注力している新製品も注目される。『わんぱくガード』は、ベランダから子どもが転落して亡くなる事故を防ぐもの。高強度で軽く錆びにくいアルミ仕様の縦格子フェンスを、ベランダに後付けで設置。ベランダを傷つけず、工事も短時間で終了。格子間隔も11㎝と視界・風通しは良好だ。

続いて、窓からの転落事故に『わんぱくロック』を開発。「子どもがすり抜けられない10㎝幅で窓をロックできれば安心だ」と岩川代表は考えた。

「どんな既存品にも付けられるようにするために試行錯誤を繰り返し、窓を閉じた状態では現状のロックとあわせて二重ロックができ、10㎝開けた状態でも自動的にロックが可能になる仕組みを作り上げました」（間根山・技術担当課長）。

両面テープでの固定と、取り付けは簡単だ。二重ロック・自動ロックがかかることで防犯にも役立つ。認知症等での徘徊防止対策にも有効だろう。

「『わんぱくロック』は大手ショッピングサイトでの販売が決まっています。ホームセンターなどへも販売チャネルを広げたい」（岩川代表）。

同社の製品群は、既存の設備に取り付けて機能を発揮させるものが多い。そこには、多様な現状を活かしながら、しっかりミッションを果たす“アジャスト技術”が欠かせない。これこそ、誇るべき特徴ではないだろうか。全面刷新よりむしろ難しい道を進む美質は、SDGs時代にも見事に合致する。

取材協力：朝日生命 東京西統括支社 世田谷営業所